

地質標本館の来場者 アンケート分析 (2020～2022年度)



**地質標本館の来場者
アンケート分析
(2020～2022年度)**

2024年1月

国立研究開発法人 産業技術総合研究所
地質調査総合センター 地質情報基盤センター

要旨

地質標本館におけるアウトリーチ活動のPDCAサイクルの構築(特にCA)を進めるため、2020年度から2022年度に地質標本館で集積した特別展・企画展、及びそれらの間の常設展示に関する入館者から回収した無記名アンケートの分析を行った。この分析は毎年度毎に実施していたが、2019年末から発生した新型コロナウイルス感染症(以下、コロナ)の影響で、休館や予約による人数制限を実施したため、2020年度、2021年度を2022年度と合わせ分析を行った。分析を通して、地質標本館に対するユーザーのニーズを把握するとともに、その結果をもとに今後のアウトリーチ戦略策定の基礎材料としていく。

分析項目は2016年度途中から始まった項目を継続している。大まかには、来館者自身に関わる情報(年齢、居住地など)、館内展示に関する情報(展示内容、展示設備など)、館内環境に関する情報(空調、照明など)、解説サービスに関する情報(見学案内、QRコードなど)、及び全体的な感想などからなる。

展示や館内環境に対する満足度は、コロナ禍においても概ね高い評価を得ている。興味を持った展示は、鉱物、化石、地震、火山、活断層などが多い。改善要望も前報告書同様に展示設備の修理・改善、館内環境の改善、わかりやすい解説を求める声が比較的高い。現在改修が徐々に進められているが、コロナの影響で展示物など触ることを制限、展示内容を変更したことによって通常見学ができないことなどが多く見受けられた。

これらの要望と今後の対応策に関する情報は、引き続き地質調査総合センター(以下、GSJ)のアウトリーチ拠点としての地質標本館の運営・施設改修へつなげるための一次データとして利用する。

1. はじめに

本報告は、地質標本館に来館された方々からアンケートへのご協力をいただき、2020年度-2022年度分について取りまとめたものであり、基本的には前回までの報告（地質情報基盤センター、2016a, b, 2017, 2018, 2019）に沿ってデータ集としてまとめている。一方、一般向けにはGSJ地質ニュースに取りまとめたものを報告している（森尻ほか、2015, 2016；辻野ほか、2018）。技術資料集での取りまとめの目的は、前報告書に記したとおり、地質標本館におけるアウトリーチ活動のPDCAサイクルの実施（特にCA部分）である。

これまで紙で行っていたアンケートをWeb方式（Microsoft365 Forms）に変更した（2020年9月導入）。今まで指摘して記しているように、回収されたアンケートに書かれたコメントは必ずしも全来館者の平均的な感想とは言えないことを前提として分析する必要がある。しかしながら、アンケートに記されているコメントは、ユーザーのニーズを知るための貴重な一次情報であると認識した上で本報告をまとめた。これまでの報告を含めて、今後、「地質標本館のニーズ分析」、「展示企画立案」、「標本館グッズ開発」等へ活用し、そしてアウトリーチ活動に関わるGSJの各研究部門の研究者にフィードバックすることで、一般向けの展示物作製やその他の研究成果普及活動の後押しとなることを期待する。併せて、今後のGSJのアウトリーチ戦略策定の基礎資料になるものと思われる。

2. アンケートの取りまとめ

当該期間における地質標本館での特別展示（第1表）は、GSJ連携推進室国内連携グループが主導し、地質標本館室との調整をしながら実施されている。

取りまとめの方針は、当該期間におけるアンケートの項目（第2表）の集計を行うことで、「一般の人から地質標本館に求められているもの（ニーズ）」、「展示企画立案」、「標本館グッズ開発」等に関する情報を抜き出し整理した。それらを図示し、前報告書と構成も含めて視覚的に対比できるようにした。

第1表 2020年度-2022年度特別展・企画展

2020 年度	6月2日～7月5日	地質標本館 特別展「GSJのピカイチ研究-2019年のプレスリリース等 で発信した成果より-」
	7月7日～9月22日	地質標本館 特別展「祝チバニアン誕生！-国際境界模式層と地磁気の 逆転とは？-」
	9月15日～11月1日	地質標本館 企画展「海で暮らした？デスモスチルス」
	10月6日～12月27日	地質標本館 特別展「深海の新しい資源にせまる-SIPプロジェクトによ る革新的な地質調査-」
	2021年1月5日～4月25日	地質標本館 特別展「祝チバニアン誕生！拡大版-もっと知りたい千葉 時代-」
	3月2日～4月25日	地質標本館 特別展「GSJのピカイチ研究-2020年のプレスリリース等 で発信した成果より-」
2021 年度	4月27日～8月1日	地質標本館 特別展「日本列島ストレスマップ-地震観測とAIで読み解 く全国の地殻応力場-」
	8月3日～12月26日	地質標本館 特別展「南極の過去と現在、そして未来-研究最前線から のレポート-」
	10月5日～12月5日	地質標本館 企画展「メタセコイア-白亜紀から現在までの姿-」
	2022年3月15日～4月24日	地質標本館 特別展「GSJのピカイチ研究-2021年のプレスリリース等 で発信した成果より-」
2022 年度	7月20日～12月25日	地質標本館 特別展「進化する地質図-GSJ140年目の地質情報-」
	12月6日～2023年3月5日	地質標本館 企画展「テフラ-噴火で飛んでくるもの-」
	2023年1月11日～3月5日	地質標本館 特別展「東京都心の地下をさぐる」
	3月7日～4月23日	地質標本館 特別展「GSJのピカイチ研究-2022年のプレスリリース等 で発信した成果より-」

第2表 アンケートの内容

<p>地質標本館について</p> <p>1. 地質標本館はいかがでしたか。</p> <p>①満足 ②やや満足 ③やや不満足 ④不満足</p> <p>2. またご来館いただけるでしょうか。</p> <p>①ぜひ来たい ②できれば来たい ③来るかもしれない ④もう来ない</p>
<p>お客様ご自身について</p> <p>3. 「性別」 ①男 ②女</p> <p>4. 「年齢」 ①18歳以下 ②19～29歳 ③30歳代 ④40歳代 ⑤50歳代 ⑥60歳代以上</p> <p>5. 「お住まい」 ①つくば市内 ②茨城県内（つくば市以外） ③茨城県外</p>
<p>今回のご来館のきっかけとなるもの</p> <p>6. 今回のご来館のきっかけとなったものをお選びください（複数選択可）</p> <p>①地質標本館公式ウェブページ ②地質標本館以外のウェブページ ③産総研 Twitter ④その他のSNS ⑤ポスター ⑥その他</p> <p>7. その他を選択した方は、きっかけとなったものをお知らせください。</p>
<p>ご興味を持った展示テーマ</p> <p>8. ご興味を持った展示テーマをお選びください（複数選択可）</p> <p>①鉱物 ②化石 ③岩石 ④地震 ⑤火山、温泉 ⑥資源、環境 ⑦地学一般 ⑧その他</p> <p>9. その他を選択した方は、興味を持たれた展示テーマをお知らせください。</p>
<p>展示物について（各々4段階で回答）</p> <p>10. 展示の仕方や表示方法（パネル、ラベル等の説明）はわかりやすかったですか。</p> <p>①満足②やや満足③やや不満足④不満足</p> <p>11. 自由意見（展示の仕方や表示方法について）</p> <p>12. 展示機器（ボタン操作等）の使い勝手はいかがでしたか。</p> <p>①満足 ②やや満足 ③やや不満足 ④不満足</p> <p>13. 自由意見（展示機器の使い勝手について）</p>

建物やサービスについて（各々4段階で回答）

14. 受付の対応はいかがでしたか。
15. 館内案内の表示はわかりやすかったですか。
16. 自由意見（館内案内の表示について）
17. 館内の明るさはいかがでしたか。
18. 自由意見（館内の明るさについて）
19. 館内の空調の温度設定はいかがでしたか。
20. 自由意見（空調の温度設定について）
21. 展示物、展示室、トイレ、洗面所及び通路の清掃は行き届いていましたか。
- ①満足 ②やや満足 ③やや不満足 ④不満足

利用した解説等のサービスについて（各々5段階で回答）

22. 説明員の解説
23. QRコード解説
- ①満足 ②やや満足 ③やや不満足 ④不満足⑤利用していない
24. 自由意見（利用した解説・サービスについて）

特別展について

25. 今回の特別展を何で知りましたか。
- ①地質標本館ウェブページ②地質標本館以外のウェブページ③産総研 Twitter④その他のSNS
- ⑤ポスター⑥知らなかった⑦その他
26. その他を選択した方は、何で知りましたか。
27. 特別展をご覧になっていかがでしたか。
- ①満足②やや満足③やや不満足④不満足
28. 自由意見（特別展について）

当館へのご希望、ご意見

29. ご自由にお書きください。
- （例）展示、ミュージアムグッズ、イベントの感想、ご要望など。

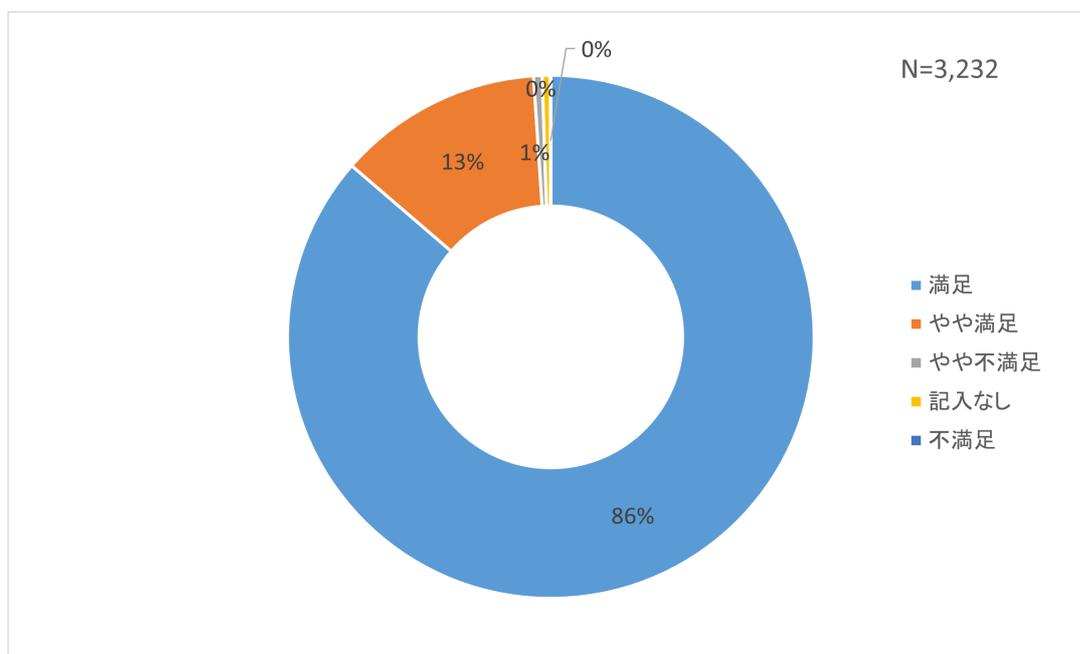
3. アンケート内容の分析結果と個別対応案

アンケートの回収数は、期間内の総計は 3,323 件である。2020 年度-2022 年度の来館者数が 59,762 人であるので、約 5.5%の回収率になる。なお、この間の団体入場者は 12,078 人で全来館者数の約 24%を占めている。団体客や学校単位での来館においては、来館者の見学時間を確保するために、引率者のみにアンケートに回答するようお願いしている。

以下、アンケート内容（第 2 表）の順に沿って、各項目の集計結果を見ていく。

3.1 全般的な満足度

最初に、来館された方々が館内で感じたことについて見てみる。まずは館内での見学全般を通してどう感じていただいたかという質問である。回答を見ると、大半が満足とあり、やや満足を含めると回答を記入していただいた方の 99%に満足していただいている（第 1 図）。不満足、やや不満足と回答した方については、コロナによる展示操作制限等によるものや、子供向け展示要望の方、産総研の守衛に対する不満などのようである。

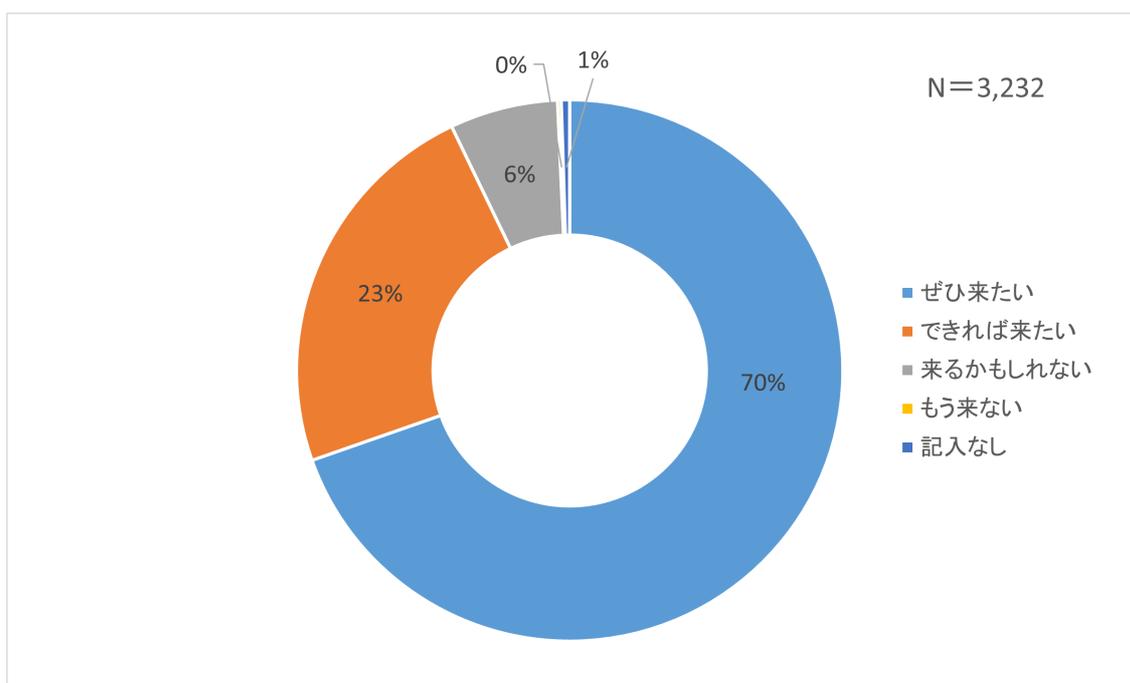


第 1 図 満足度（館全般）

3.2 満足度（次回への期待度）

また機会があればご来館いただけるかどうか（次回への期待度）の質問に対して、回答を記入いただいた方の 93%が「ぜひ来たい」、「できれば来たい」の積極的な回答、6%ほどの

方が「来るかもしれない」で、「もう来ない」は「記入なし」を含めてもごくわずかである（第2図）。「もう来ない」と回答された方で満足度が「不満足」だった人は、地質標本館以外（駐車場の案内）が原因で、それ以外は遠方から来館された方や高齢の方、子供向け施設と思われて来館されたようである。

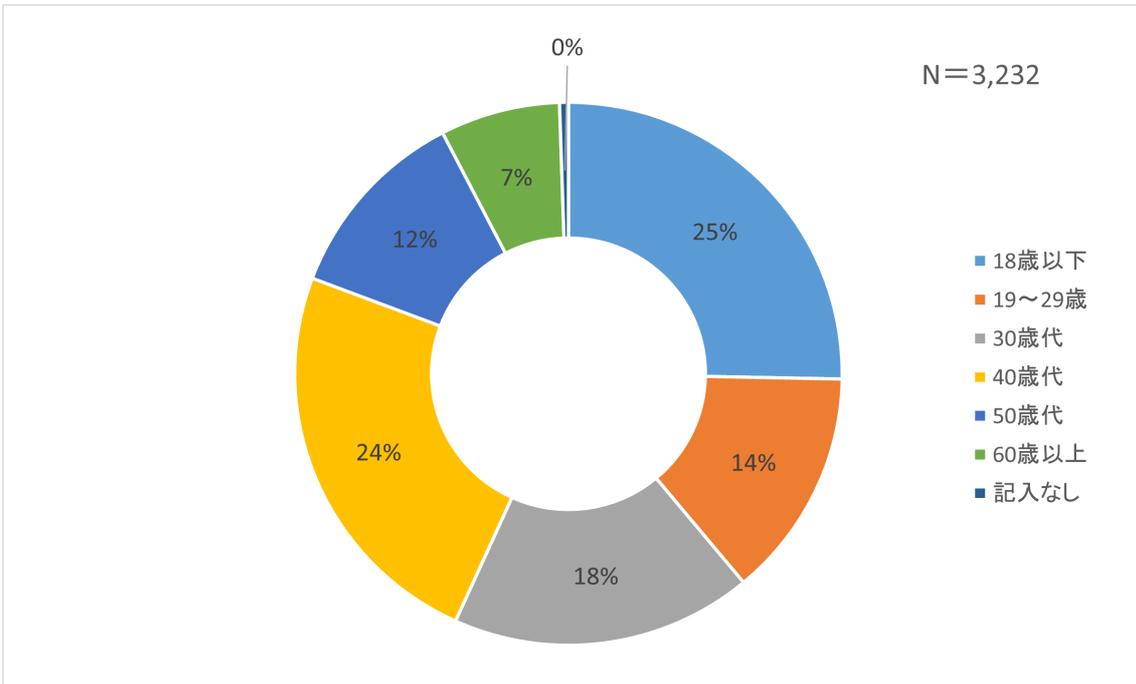


第2図 満足度（次回への期待度）

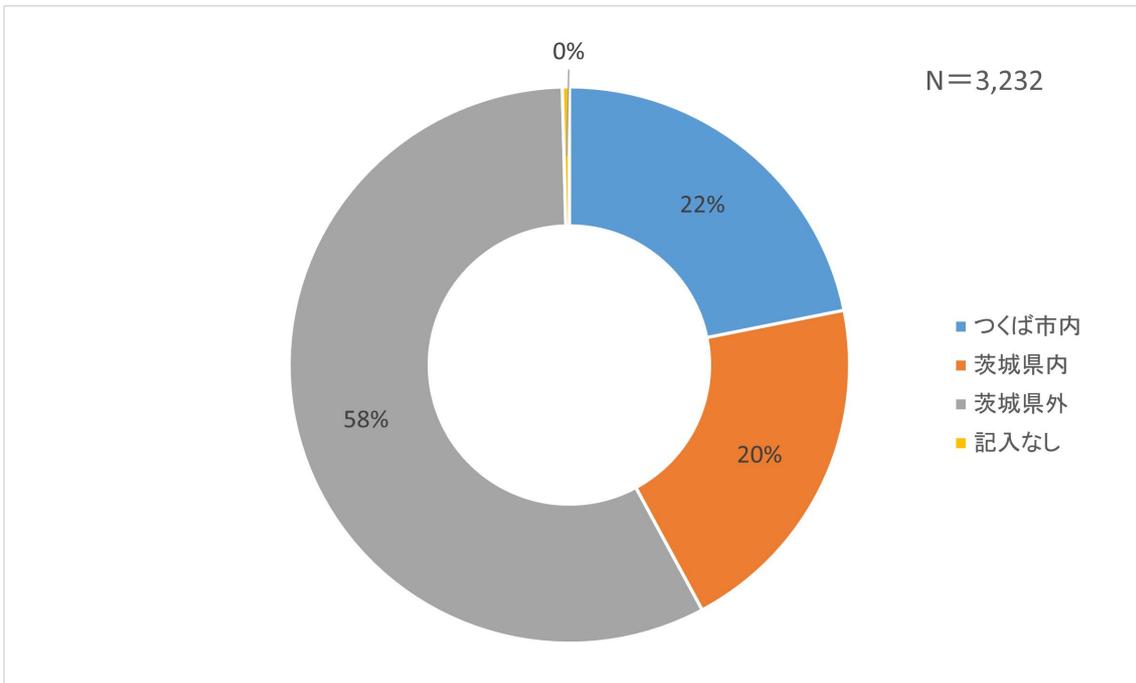
3.3 回答者の年齢層・居住地

回答者の概要を考える参考として、年齢層と居住地を見てみる。

回答者の年齢層（第3図）の傾向を見ると、18歳以下が大きく伸び、以前まで一番低かった割合が一番高くなった。代わりに60歳代以上が減少している。コロナの影響でアンケートを紙からWeb方式としたため、年代によるデジタルへの親和性の違いが反映されたものと思われる。40歳代の割合は以前と変わらず大きい、その他の世代はほぼ拮抗している。40歳代が多いのは、小学生連れ家族の来館が多いことを反映している。



第3図 年齢層

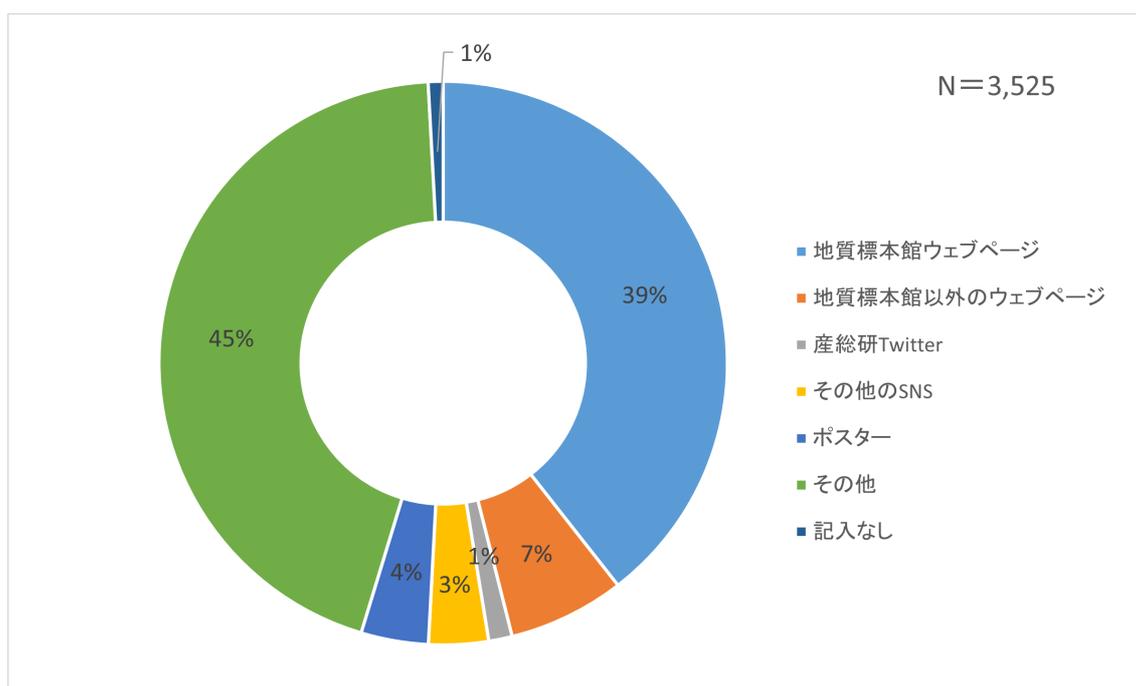


第4図 居住地

3.4 来館のきっかけ

特別展示やイベントの案内は地質標本館のウェブページや産総研の公式 Twitter (X) など

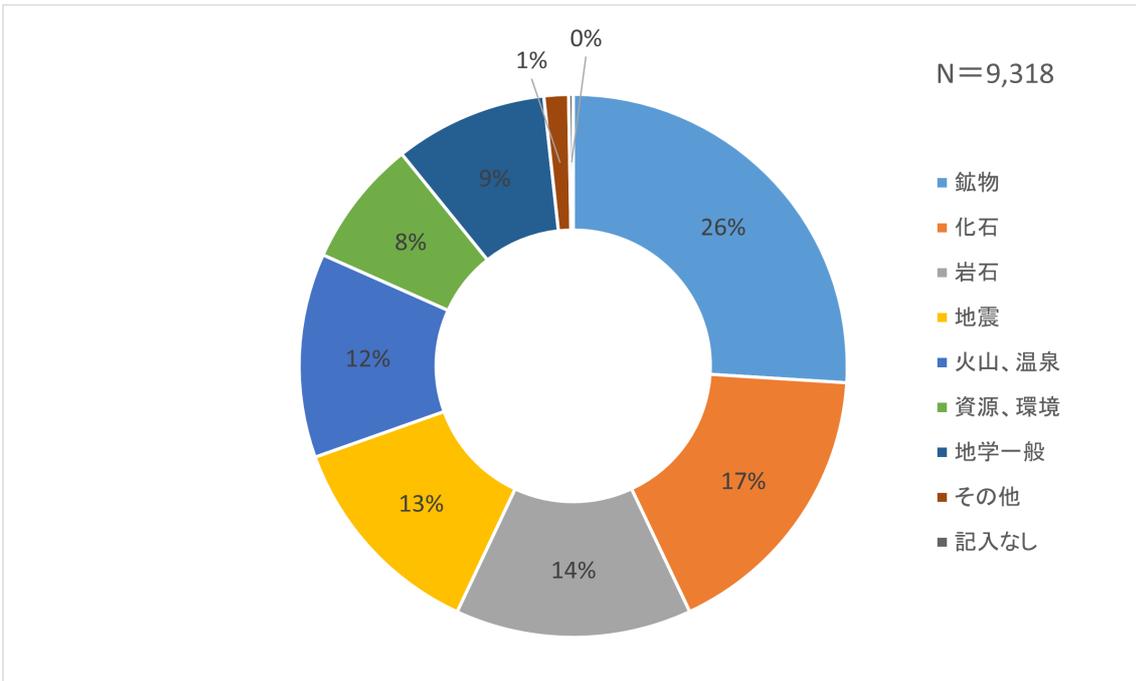
で行っている。ポスターは大型プリンターで出力して、つくばエキスポセンターなどに掲示を依頼している。また、近隣の学校などにもチラシを配布している。第5図から、地質標本館ウェブページやインターネットの割合が増加。インターネットが5割を超えて伝達手段として主流となってきている。ただし、従来型のポスター・チラシは、関心がない人々にもイベント等を知るきっかけとなり得るし、学校への配布も継続するべきである。これに比べて、「その他」の割合が大きくなっている。学生が学校の行事で来館した場合や、近くに来たので立ち寄ったという方もかなり多いようである。



第5図 来館のきっかけ

3.5 興味を持った展示テーマ

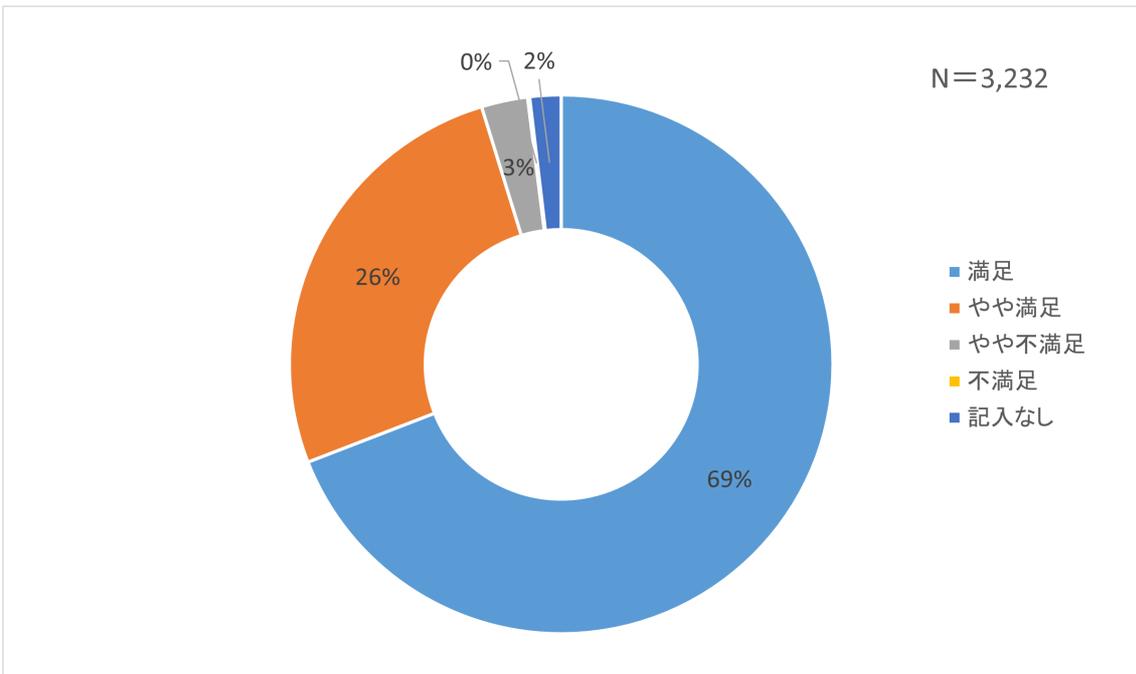
ここでは、「興味を持った展示テーマ」を、その他を含めて8つのキーワードでの選択式として、複数回答可とした。集計結果は第6図に示す。その他として回答のあったものに、記入式で具体的な展示物などを書いていただいた。例年同様に鉱物が人気となっているが、それ以外のテーマにも興味を持っていただけていると思われる。コロナの影響で常設展示の接触や、特別展・企画展・イベント等が制限された状況ではあったが、均等に興味を持っていただけたようである。



第6図 興味を持った展示テーマ

3.6 展示物について（展示の仕方、表示方法）

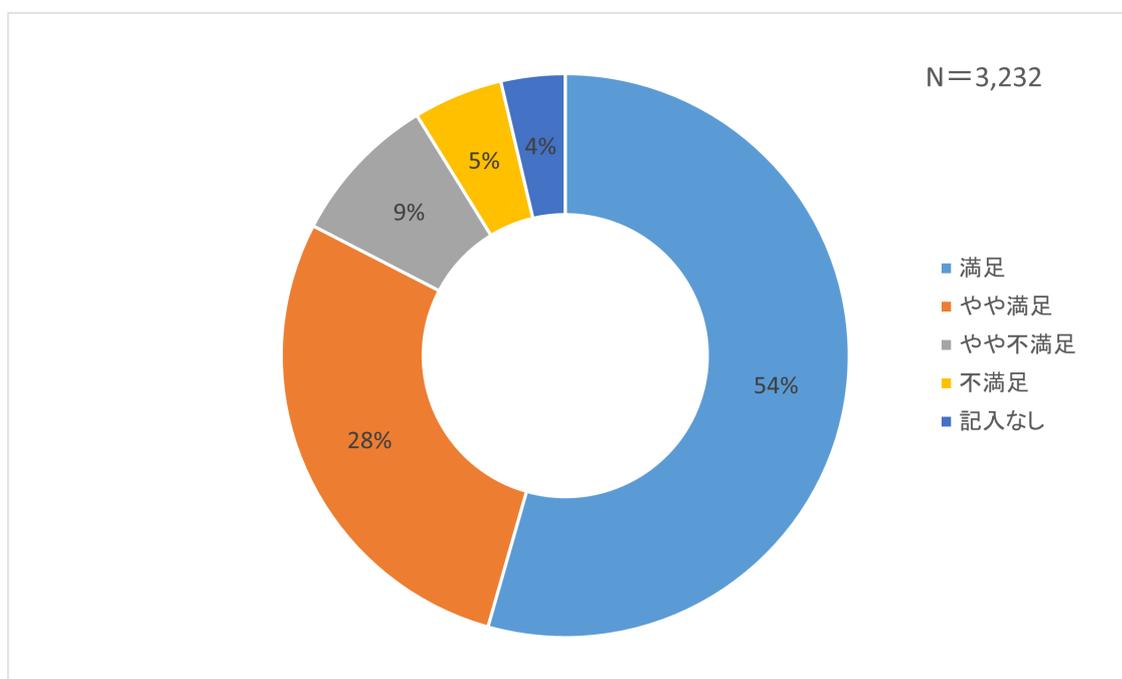
展示の仕方、表示方法について、①満足、②やや満足、③やや不満足、④不満足の4段階で回答をしていただいた。集計結果は第7図にあるように例年度同様概ね満足のようなものである。



第7図 展示物について（展示の仕方、表示方法）

3.7 展示物について（機器の使い勝手）

機器の使い勝手については、①満足、②やや満足、③やや不満足、④不満足の4段階で回答をすることになっている。集計結果は第8図で示しており、概ね満足となっている。不満足については、コロナで非接触となっていることが影響している。上記の「3.6 展示物について」も含めて、それぞれの項目に自由意見欄があるが、ここでの記述があれば集計・分析においては後述の「3.9 ご意見、ご要望」で取りまとめることとしている。



第8図 展示物について（機器の使い勝手）

3.8 解説案内・QRコード解説

地質標本館として提供している解説サービスには、(1)スタッフによる予約団体への説明解説、(2)スマートフォンやタブレット利用によるQRコード解説システム（紙資料による館内クイズはコロナにより停止。アンケートからも削除。）がある。これも①満足、②やや満足、③やや不満足、④不満足の4段階での回答となっている。自由意見欄については、集計・分析は後述の「3.9 ご意見、ご要望」と合わせて取りまとめる。回答総数3,232件のうち、解説サービス利用は、解説案内1,526件、QRコード解説1,692件となっている。QRコード解説システムによる日英の文字及び音声解説もあり、利用された方からは良い感触を得ている。館内に公衆Wi-Fiが導入されたことで環境が改善された影響がある。

3.9 ご意見、ご要望

最後に自由記述で、全体のご意見、ご要望をうかがうこととしている。ここでの記述は、地質標本館に課せられた役割と照らし合わせながら今後の参考とするものである。

これまで、自由意見として寄せられた内容を、2015年度までの報告書（地質情報基盤センター, 2016a）に従って以下の12のキーワードに整理してきており、今回もそれに沿って整理した（第9図）。コメントをいただいた中で一番多いのは、要望ではなく良かったという内容の意見であった（62%：コメント有912件中560件）。

- ①展示物の更新・入れ替え
 - ②解説内容の充実・修正
 - ③わかりやすい解説・子供向け解説
 - ④質問対応・解説案内者の充実
 - ⑤展示設備の修理・改善
 - ⑥体験型展示
 - ⑦動線の改善
 - ⑧館内の環境改善
 - ⑨PR強化
 - ⑩ミュージアムショップ
 - ⑪他機関との連携
 - ⑫その他（地質標本館外の要因）
- ※コロナに係る要望も追記

それぞれのキーワードとその中で整理された意見で目についた事例を第3表に示す。キーワードにまとめられた分布の割合は今までとほぼ同様であるが、コロナの影響と地震による休館期間があったことで、アンケートに記載された内容は、コロナが関係していることが多いと考える。これらの自由意見の要望については、既に対応済み（コロナ対策の解除を含む）のものも多数あるが、現在地質標本館の大規模改修計画に沿って進めている今後の改修の検討内容に寄与できる事項が多く含まれている。

①「展示物の更新・入れ替え」の展示してほしいテーマへの要望のうち、すでに改善・改修している展示物に気付いていない場合も見受けられるが、受付に問い合わせただければ案内している。館内の化石や鉱物などの展示を増やして欲しいという要望も依然としてあるが、館内スペースとの関連もあり、これ以上は難しいと考えている。その代わりに、特別展などの開催でいろいろなものを見ていただきたいと考えており、今後も検討を重ね

ていきたい。

②「解説内容の充実・修正」と③「わかりやすい解説」については、同じものを見ても簡単と思う人と難しいと思う人がいる。両方を満足させるのは難しいが、例えば専門家・知識が多い人向け、一般の非専門家向け、小～中学生程度向けといったように、入館者のレベルに応じた見学コースを用意することが必要であろう。2017年度から、大学生などによる博物館実習や中学生の職場体験等の研修を通じて、見学コース作りを模索しているところであり、受付にある数種類の見学コース例をリニューアルして再開を検討したい。なお、地質標本館はGSJの広報施設かつ研究所の展示施設としての役割があるため、ある程度専門家が満足することも必要である。一般の子供連れ（未就学）の来館者が増加しているが、子供向け博物館と思われる回答も多く。今後どう対応するかは今後の課題である。

QRコード解説システムは館内Wi-Fiの改善で、少しずつ来館者に浸透していると考えられる。一般向け（小学校高学年以上が対象）の補完的な順路ガイドや見学の要点を説明する館内クイズがあったが、コロナの影響で中止したままとなっている。「おすすめ標本ストーリー」など紙資料での情報提供も、コロナで撤去していたものを順次復活させている。

④「質問対応・解説案内者の充実」について、コロナ禍で入館制限のため、解説有の団体予約は学生のみとし、一般団体への対応は制限されていた。制限が解除されても、職員が解説対応できるのは平日のみであり、休日の来館者への対応を具体的に検討する必要がある。

筑波山地域ジオパーク推進協議会との協働で行っていた、館内ジオパークツアーも中止しており再開はまだである。平日の個人来館者に対しては、予約解説は受け付けていないが、2020年度より館内に解説員が居れば質問を受ける対応を始めた。

常設展示で触れる鉱物・化石もすべて非接触とし、操作パネルも一部触らないでも映像が流れる対応としていたが、行動制限が解除されたことで徐々に戻している。

⑤「展示設備修理・改善」については、軽微な故障等は日々の点検とともに修繕が進められているが、老朽化しているものもあり、タイミング悪く故障している時期に来館された方からの指摘も多い。

⑥「体験型展示」については、コロナによる非接触型を増やしたため、操作パネルやさわられる化石・鉱物などがさわれない期間があった。紙資料も引き上げ、接触を避ける対策を取っていた。地盤液状化実験ボトル「エキジョッカー」などの展示を中止したり、イベントが行えない状況であった。日本列島大型地質模型のプロジェクションマッピングでは、音声案内をわかりやすくすることで、利用の改善を行っている。ガイドツアーや各種体験学習イベント（化石レプリカ作り、砂の観察）の開催、夏休みの子供向けイベント（地球なんでも相談、化石クリーニング体験教室）も中止していた。今後はコロナの状況を見ながら、幾つか

のイベントを定期的に行っていきたいと考えている。

⑦「動線の改善」については既に各所に表示が設置されていたが、展示室前の床にも大きなサインを表示し、また、館内パンフレットにもフロアマップが掲載されており、徐々に表示が増えているが、未だにわかりにくいとのコメントが寄せられている。なお、当館では、特別展を1階ロビーのフロアを使用して開催していることから、この期間のロビーの見通しが良くないことも依然として表示を増やすことの要望につながっているものと思われる。

⑧「館内の環境改善」については、空調や照明の要望が多いが、これらは個人による感じ方の違いに依存すると考えられる。このうち、空調（室温）については、2階の空調機の修理を行い改善されたと考えている。館内の照明が暗いという意見については、2017年度末にリニューアルした日本列島大型模型のプロジェクションマッピングを見やすくするために第1展示室内を暗くする必要が生じたことに起因するものが多いようである。カフェなどの設置要望があるが、2階休憩コーナーにある自動販売機の利用をお願いしているところである。ロッカーなど、既存施設に気づかずにおられる方もいるようで、これまで記述してきたことも含め、疑問点があれば受付に気軽に尋ねられるよう工夫したい。

⑨「PR強化」については、来館者数増加策のために即時に対応すべき点であることはこれまでと変わらない。当館としては、地質情報基盤センターとして地質標本館のウェブページの充実をはかるとともに、産総研の公式ウェブサイトやTwitter (X) などにより、地質標本館を会場としてイベントを行う場合や新たな展示物が入った場合に、発信の機会を多くしている。また、テレビ取材などの機会には引き続き積極的に応じている。

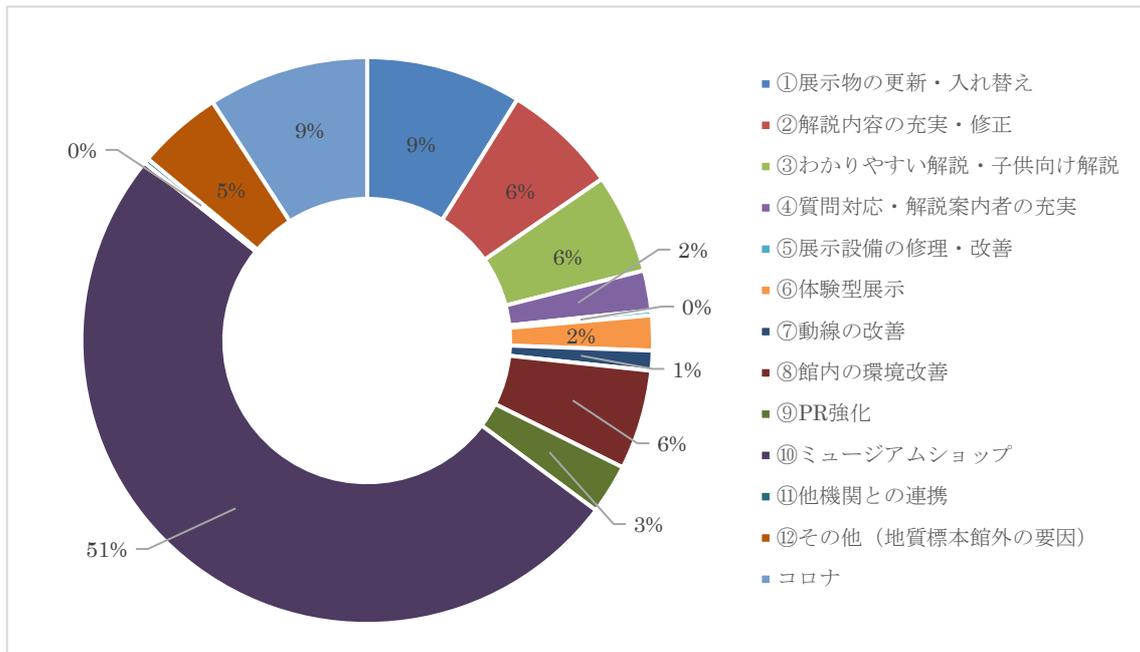
⑩「ミュージアムショップ」については、来館者からの関心が高いようである。市販品の販売を求める声もあるが、現状では対応できない。グッズの種類を増やす要望については、少しずつ対応しており、地質標本館ウェブページでも案内している。鉱物や化石の標本などの販売を期待する声も依然としてあるが、研究資料として岩石等を扱う研究所の博物館でもあり、また、ジオパークの学習施設となっていることもあり、販売はできない。ミュージアムグッズは、産総研の規定の範囲内で現在複数の有料頒布物の開発を行っており、今後もこの方針に沿ってグッズの開発を行っていく予定である。

⑪「その他」については、地質標本館又はGSJのみで対応できるものではなく、産総研としての対応が求められるものがある。例えば、継続的な懸念事項であるが、駐車スペースの充足や、産総研構内への入構について簡素化を望む声があるが、現実問題として実現は難しいところである。

第3表 自由意見の中の改善要望

①	展示物の更新・入れ替え	トルコの地震を阪神大震災や熊本地震と同じところ等（発生のメカニズム）を簡単に比較した展示を見てみたいです。
		もっと火山が知りたいです。
		映像を使った説明が、より多いと理解が深まる。岩石の生成過程は時に映像で見せられると直感的に理解できる。プラタモリのように。
		化石の成り立ち原理が知りたいと思った
		恐竜化石を増やしてください。
		山に関連したところの展示、もっと増えるといいなと思いました。
		収蔵庫の標本との入れ替えを活発に行っていたらと嬉しいです
		地質(無機)から生物(有機)へのつながりを展示してほしいです。植物は無機元素からしか養分を吸収するしかなく、そこが、有機への起点となっているので。土壌(世界の土壌分類)や植生などに大きく影響を与えるので。
		定期的に新しい展示物を出してほしい。
		定期的に特別展を開催していただくと、リピートできて良いと思う。
二度目の来館だが、充実した内容を無料で見学できることが大変ありがたい。興味ある企画展があればまた来館したい。		
②	解説内容の充実・修正	いつ情報が更新されたのかが分かって、次回以降の見学に有効と思いました。
		化石やいしのおもしろコメントとか、まつわる雑学とか、会話のきっかけになる情報がほしい
		館内の展示内容や設備の説明をもう少し充実させた方がよい
		鉱物の名称などで難しい漢字が多かったので、カナをふって欲しい
		石の成り立ち（マグマや海のイラストから主な石の種類が載っている）の図がもう少し詳しいといいなと思いました
地球の歴史をもう少し具体的に解説する展示があって欲しい		
展示のスタイルがやや古く感じるものがありました。		
③	わかりやすい解説・子供向け解説	もう少し子どもの楽しめるものを増やして欲しい。
		扱うものの性質上地味ではありますが、内容が真面目すぎてもっと子供も興味を引くような展示を増やして裾を広げるのもよい気がしました。
		子供が興味を持つ様な展示を心がけて欲しい。
		私も高校時代に学校の行事で訪れて以来、特に若い人が興味を持てる展示にしていってほしいです。
		想定以上の満足感であった。しかし素人には少々難しかった。推奨テーマ別の見学コースが設定されていると理解が深まると思います。
低学年の子どもや年寄りにも見やすい字体、フォントを大ききで掲示していただくと助かります。		
④	質問対応・解説案内者の充実	おもしろかったです。解説員に質問しやすくなるとよりありがたいです。
		もっと専門の方のお話が聞きたい
		何でも相談とまではいかずとも、お話しを気軽に聞いたり、質問したりできる雰囲気があるとより良いと思う。
少し声をかけて欲しいです。		
⑥	体験型展示	コロナの対策を万全にして、体験型の展示を増やしてほしい。
		展示に興味をわくようなスタンプラリーや、クイズなど、なにか、ゲームせいがあるものも提供されると嬉しいです。
		体験型で遊べるものももっとあれば面白いと思う
⑦	動線の改善	また来館したいと思います。
		トイレの表示が分かりにくい
		小学五年生の子どもがかなり気に入って、入り口すぐの展示だけでも時間をかけて見ていました。学校で習った内容とリンクして分かりやすかったそうです。これで無料でもかゆく見られてとても満足しました。ただ、二階に展示物があるかどうか分かりづらかったです。階段脇に案内があるとありがたいと思いました。
⑧	館内の環境改善	2階ベランダに椅子なしでいいので日除けがあると、猛暑の中密よけスペースとしてより快適(母)。
		お休みできる場所がもう少しほしい
		プロジェクションマッピングで子どもが並んでずっと待っているのに、何分も知らないふりをして使い続けている大人がいて、気分が悪かったです。並んでいる人がいる場合などには時間制限があってもいいと思いました。
		飲み物を飲むために、休憩室に移動するのが、ちょっと疲れる。
		自分は老眼なのでもう少し明るい助かります
		中はもちろん、外の展示や地中熱ヒートポンプシステムの説明も楽しめました！4時間も見てまわってお腹が空いたので、2階のベランダスペースでは食事もOKにしていただけると有り難いです。
展示室の椅子が助かりました。部屋毎に座れる場所があると有り難いです。		

⑨	PR強化	アクセスが悪いせいか、来訪者が少ないようです(平日だったからか?)。展示が充実しているので、もったいないです。
		アンケートを答えると標本カードがもらえることをアピールしていただけると嬉しいです。
		より興味のない人を惹きつけるような展示やデザインを工夫して欲しい
		もっとアピールした方がよいと思います。
		徒歩で行く場合、正門しか使えないことをHPに明記してほしい。つくば駅からGoogleマップの経路検索に従って歩いたが、マップに表示された最短ルート(洞峰公園の暗証番号式通用門?)と2番目のルート(西門)はいずれも通れず、正門まで大きく迂回しなければならなかった。よい道なのだから歩く人もいるはず。ぜひ改善をお願いしたい。
⑩	ミュージアムショップ	ミュージアムグッズの種類を増やしてください!とても素晴らしい施設なのでもっとPRしてください
		4歳の子どもと来ましたがまだ難しすぎたようです。もしできましたらもう少し小さい子ども向けの展示やお土産があると嬉しいです。大人はとっても興味深く楽しめました。
		お土産用に鉱物が売店で売られていたら買いたかったです。
		グッズに鉱物の標本やキーホルダーなどがあれば、お土産にも良いなと思いました。
		グッズの他に書籍や標本も置いてみてはいかが?昔カハクで買った鉱物標本は今でも利用しています。
		それと、書籍、地質標本館の展示をもっと理解できるように解説本があるといいなあ、と思いました。
		あと、グッズ販売ブースが受付の真下だと、見るのに少し抵抗があるのかもしれないです。
		ミュージアムグッズで、お目当ての品物が品切れしていて残念でした。 化石チョコレートの復活を検討いただきたく。 図録があればぜひ買いたい。
⑫	その他	つくば駅から無料送迎バスで来るつもりでしたが、休日は運転されてなく残念でした。
		バス停から地質標本館までの道が分かりづらいです。案内が要所要所にあると親切かもです。
		公共交通機関で行きましたので、自由な行動が難しく、休憩場所、食事できる場所、周辺施設へのアクセスの情報があるとより助かりました。
		案内の方に聞いたところ怒鳴られた。 駐車場の位置が少しわかりにくく、来場者が使える駐車場なのかわかりにくかったです



第9図 今後の展示内容の改善要望

4. 来館者動向と今後の対応

地質標本館受付では、継続的に来館者の統計を取っている。2020年度-2022年度のデータを第10~15図に示す。

2020-2021年度はコロナと地震による休館の影響で、来館者が大きく減少したが、行動制

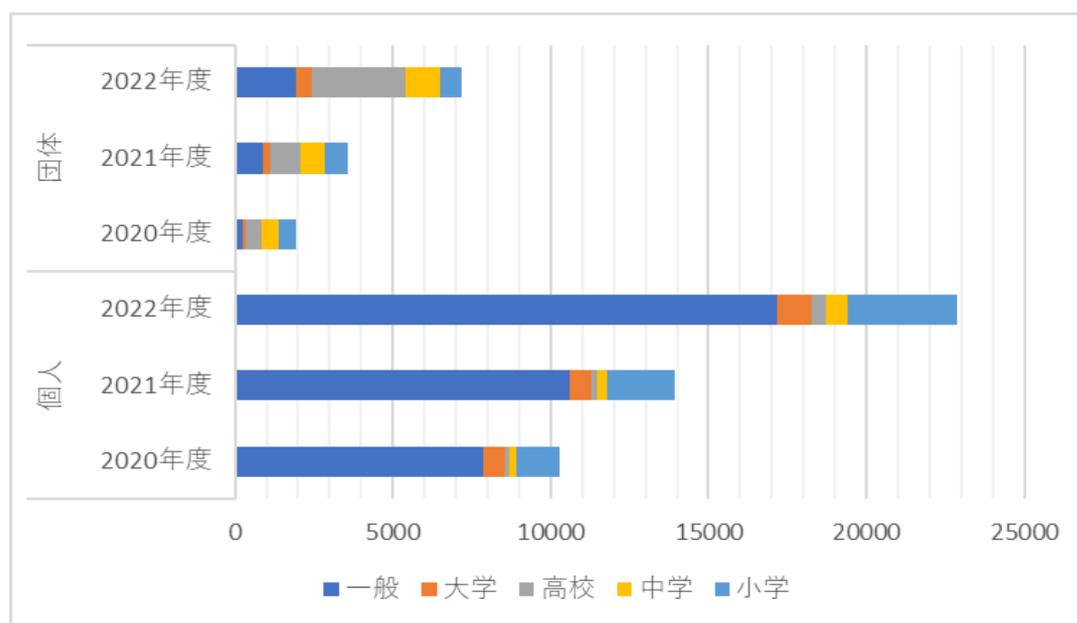
限が解除された 2022 年度には回復傾向となった。以前は団体での来館者数が半数近くを占めることもあったが、学校行事が軒並み中止された影響を受けている。

産総研でも夏休みに開催していた一般公開が中止され、地質標本館も開催していたイベントを中止した。今後、イベント等を再開していくが、コロナ前に戻れるよう対策が必要と考える。

年度ごとの比較では、2019 年度に比べて団体での行動が制限されたため、個の移動が多く一般（家族連れの方々）が多い。回復傾向である 2022 年度には、高校生の団体がコロナ前の数に戻ってきたが、それ以外の団体は依然として減少したままである。

地域別では行動制限の影響で、すべての来館者が大きく減少、2022 年には県外の数ほぼ戻ってきているが、つくば市内の来館者数がまだ以前の 5 割に満たない状況である。2020 年度 2021 年度は外国からの来館者がなかったが、2022 年度に来館されたことで、コロナが明けたことが実感できる。

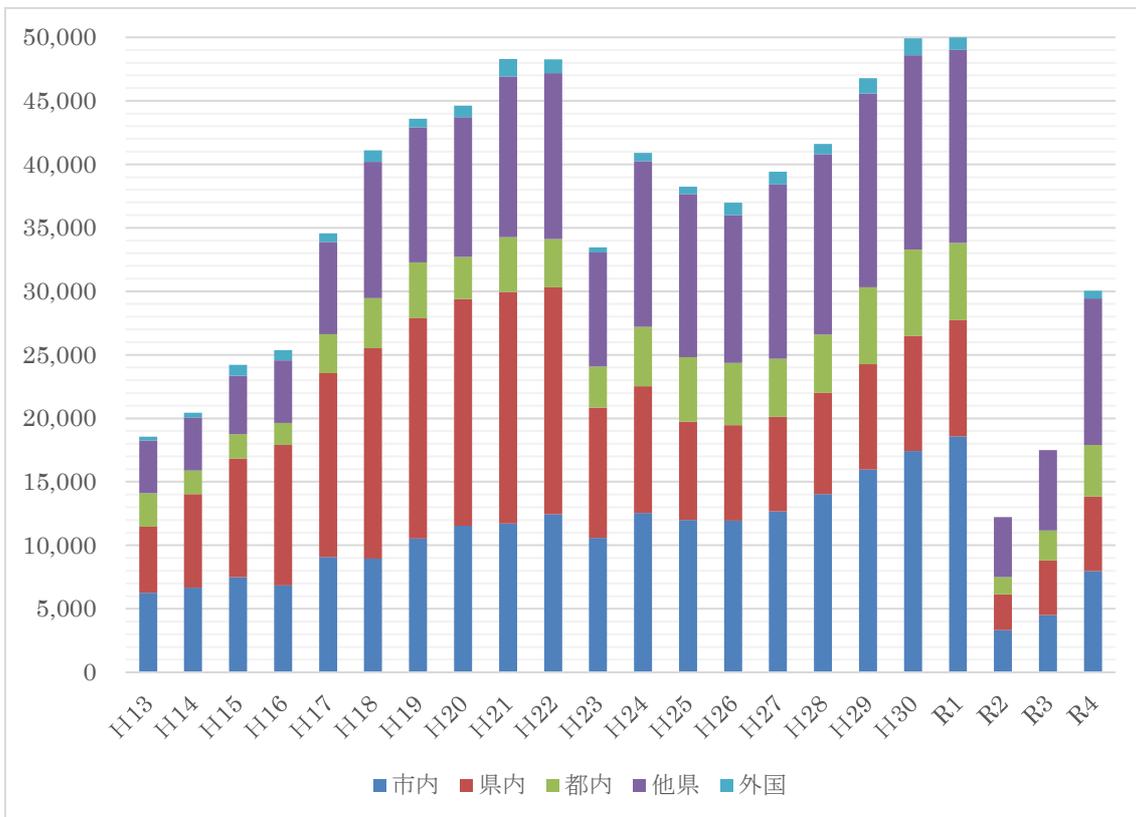
全体の来館者数の職業別来館者数（第 13 図）を見ると、一般が約 65%で最多、小学生が約 15%で 2 番目に多く、その他はほぼ同等となっている。ただし、個人と団体では職業で大きな差が出ている。団体では高校生が大きく割合を占めているが（第 14 図では約 35%）、小学生の割合が少なくなっている。個人（第 15 図）では逆に高校生が約 1%、中学生が約 3%、小学生は約 15%となっている。親子連れで行動する先として認知度が上がっている一方、親と行動が少なくなる中学生・高校生は、移動手段を持たないため、交通手段の悪い影響を受けていると考える。また、学校行事での行先として、高校生には活用してもらっているが、中学生と小学生に活用されていない結果となっている。



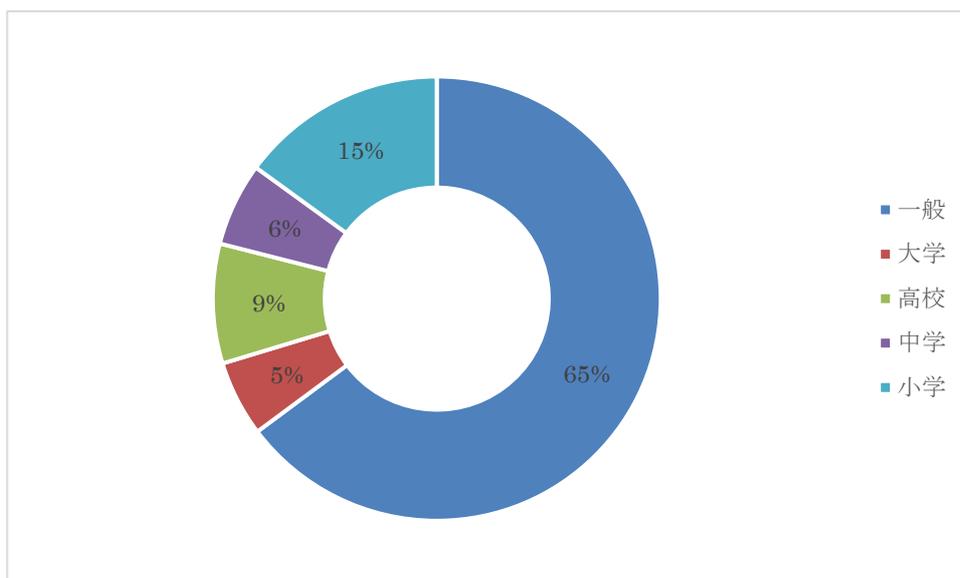
第 10 図 来館者種別個人・団体比較



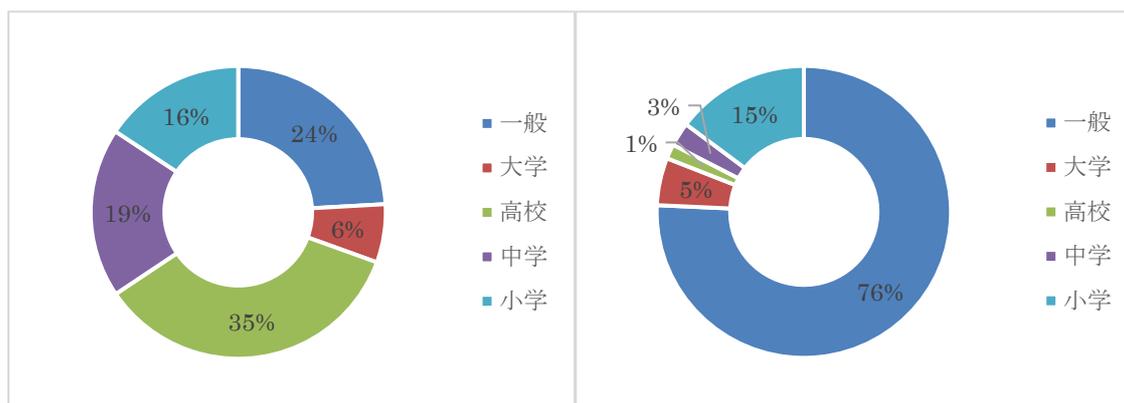
1 1 図 入館者数総計推移（職業別）



第 1 2 図 入館者数総計推移（地域別）



第 13 図 2020-2022 年度職業別来館者数（全体）



第 14 図 2020-2022 年度職業（団体）

第 15 図 2020-2022 年度職業（個人）

5. おわりに

本報告では 2020 年度-2022 年度のアンケートを分析した。

今後も地質標本館で実施するアンケート内容は、社会ニーズの把握と GSJ 全体のアウトリーチ活動に対する満足度を計る指針とすることを念頭に置き、引き続き地質情報基盤センター地質標本館室運営グループにより継続的かつ定期的に報告する。これら来館者からの直接的な意見は、GSJ のアウトリーチ活動の PDCA サイクルを動かしていくための参考資料として活用しつつ、地質標本館の運営に反映していく予定である。

文献

地質情報基盤センター（2016a）地質標本館の来場者アンケート分析（2007年～2015年度夏展まで）. GSI 技術資料集 No.5, AIST15-G00002-5

https://www.gsj.jp/data/comprep/GSJ_ComRep_05_2016.pdf

地質情報基盤センター（2016b）地質標本館の来場者アンケート分析（2015年度後半：秋～冬の特別展）. GSI 技術資料集 No.6, AIST15-G00002-6

https://www.gsj.jp/data/comprep/GSJ_ComRep_06_2016.pdf

地質情報基盤センター（2017）地質標本館の来場者アンケート分析（2016年度）. GSI 技術資料集 No.8, AIST15-G00002-8

https://www.gsj.jp/data/comprep/GSJ_ComRep_08_2017.pdf

地質情報基盤センター（2018）地質標本館の来場者アンケート分析（2017年度）. GSI 技術資料集 No.10, AIST15-G00002-10

https://www.gsj.jp/data/comprep/GSJ_ComRep_10_2018.pdf

地質情報基盤センター（2019）地質標本館の来場者アンケート分析（2018年度）. GSI 技術資料集 No.11, AIST15-G00002-11

https://www.gsj.jp/data/comprep/GSJ_ComRep_11_2019.pdf

地質情報基盤センター（2020）地質標本館の来場者アンケート分析（2019年度）. GSI 技術資料集 No.12, AIST15-G00002-12

https://www.gsj.jp/data/comprep/GSJ_ComRep_12_2019.pdf

森尻理恵・吉田清香・朝川暢子・下川浩一・奥山康子・佐藤隆司・高橋 誠・酒井 彰・須藤 茂・利光誠一（2015）地質標本館来館者アンケート結果概報（2007-2014）. GSI 地質ニュース, **4**, 346-352

森尻理恵・朝川暢子・下川浩一・奥山康子・佐藤隆司・高橋 誠・酒井 彰・須藤 茂・利光誠一・菅家亜希子・吉田清香・中山 淳・常木俊宏・小賀野功（2016）地質標本館来館者

アンケート結果概報（2015 年度）. GSI 地質ニュース, 5, 377-381

森尻理恵・谷島清一・朝川暢子・下川浩一・佐藤隆司・高橋 誠・酒井 彰・利光誠一・菅
家亜希子・中山 淳・常木俊宏・小賀野功・川鈴木宏（2017）地質標本館来館者アンケート
結果概報（2016 年度）. GSI 地質ニュース, 6, 268-276.

辻野 匠・谷島清一・朝川暢子・下川浩一・佐藤隆司・高橋 誠・酒井 彰・利光誠一・中
山 淳・常木俊宏・五十嵐幸子・川鈴木宏・利光誠一・藤原 治（2018）地質標本館来館者
アンケート結果概報（2017 年度）. GSI 地質ニュース, 7, 239-248.

地質調査総合センター技術資料集 13

地質標本館の来場者 アンケート分析

(2020～2022年度)

2024年1月

国立研究開発法人 産業技術総合研究所 地質調査総合センター 地質情報基盤センター
〒305-8567 茨城県つくば市東 1-1-1 中央事業所 7 群

【執筆・集計担当】 武井勇二郎・中川圭子・小川 浩・朝川暢子
常木俊宏・森田澄人・谷田部信郎

【レイアウト担当】 朝川暢子

【問い合わせ】 <https://www.gsj.jp/inquiries.html>

本報告書は産業技術総合研究所地質調査総合センターの組織著作物です。

「政府標準利用規約（第 2.0 版）」準拠



産業技術総合研究所 地質調査総合センター
〒305-8567 茨城県つくば市東 1-1-1 中央事業所 7 群
<https://www.gsj.jp/>